

### 審議会等の会議の記録

会議の名称	伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館運営協議会
開催日時	令和 6 年 3 月 15 日(金) 14時 00分 ~ 16時 00分
開催場所	赤堀歴史民俗資料館研修室
出席者氏名	(委員) 村田会長、矢島副会長、萩原委員、塩崎委員、前澤委員、三澤委員、清水委員、栗原委員 (教育委員会) 小島課長補佐、出浦課長補佐、早川課長補佐、栗原係長、川道主幹、板垣主任
傍聴人数	0人
会議の議題	(1) 令和5年度事業報告について (2) 赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画(資料館の現状と課題)について
会議資料の内容	(1) 令和5年度事業報告について (2) 赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画(資料館の現状と課題)について
会議における議事の経過及び発言の要旨	(1) 開会 (2) 会長挨拶 協議事項 令和5年度事業報告について 事務局から令和5年度事業報告について提示され、承認された。 【意見の概要】 ・おひなさまの展示の来館は団体が多かったのか。 →団体利用も数件あったが、個人が多く、寄贈者の知人や新聞の掲載を見て来館した人も多かった。 ・企画展の切り口がしっかりしているため差別化を図れている。マンネリ化を防ぐため今後も継続してほしい。 ・展示のタイトルに「伊勢崎」と入れ、伊勢崎の魅力の再発見となり良いと思う。浅間山の展示パンフレットの増刷の予定や他の企画の冊子を作る予定はあるか。また、おひなさまの文化的な価値について伺いたい。今後、専門家の協力を得て研究していくのはどうか。 →パンフレット増刷については今後の在庫状況により対応していく。現在の職員体制を考慮し、1つの展示は冊子を作成し、他の展示はA3判資料で対応していく。雛人形の展示については、専門的な知見を得たうえで、考古学の視点で考えると、おひなさまの文化的

	<p>な価値とは、変遷や流通、生産地といった視点で見ることができると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独自の視点による研究を継続してほしい。現在のように冊子は年1冊に集中してほしい。</li> <li>・冊子の文字を大きくし、展示することで多くの方の目に触れるようにしてみてもどうか。</li> <li>・パンフレットは教育施設へ送ったか。 →送付済み</li> <li>・社会科教員の研修や会議で資料館の周知をしたが利用の結果が伴わない理由として、教員が次年度の学習計画を立てる際にバス会社などから見積徴取するため、見積時期に間に合うよう周知する必要がある。 現在文部科学省で地域学習に力を入れており、生涯学習の観点からも資料館を利用することは重要と考える。市広報紙を利用するなど効果的な宣伝をしていると感じた。</li> <li>・赤堀の小学校の利用が多いことは評価すべき点であるが、境地区やあずま地区の利用が少ないため、前年度からの働きかけが重要である。 →来年度モデル事業として、田島弥平旧宅と当館の小学校向けバス見学を行う。</li> </ul> <p>協議事項 赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画（資料館の現状と課題）について</p> <p>事務局から赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画（資料館の現状と課題）について提示され、承認された。</p> <p><b>【意見の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の登録博物館において、歴史民俗資料館と施設名に付いていることは珍しい。再度県に確認してほしい。</li> <li>・出入り口の動線上に展示資料があることは安全面において問題であり、防災の観点から資料を安全に管理できる収蔵庫が必要である。</li> <li>・これらの問題をクリアすることで市の文化財の窓口として発展していけるのではないかと。地域に根差した博物館であり、東京国立博物館などにある市内発掘資料を展示できる施設を目指したい。</li> <li>・市史編さんが着手されたところであり、通史的展示は市史編さん終了後の課題とし、赤堀地区を中心としたスポット的な常設展示がいいのではないかと。</li> </ul> <p>(4) その他 (5) 閉会</p>
--	--